

# 区分：人文・社会科学

授業科目名	人間と文化（哲学）				学期	曜日	校時
英語名	Humanity and Culture (Philosophy)						
担当教官名	高橋 眞司	単位数	2 単位	必修 選択	選択	前期 木曜日	校時
授業のねらい・内容・方法							
<p>哲学は2500年の長い伝統をもつ最も古い学問の一つである。そして、そこからさまざまな学問と科学が生まれていった「母なる学問」といえる。また、現代において自然と人間・社会の認識についてたえず配慮してやまない「父なる学問」ともいえる。哲学は宏大深遠であり、それだけに学び甲斐もあるが学ぶ困難も大きい。</p> <p>講義では哲学の伝統の節目ふしめを大切に学びながら、現代に生きる私たち自身の思想的課題、実存、神、死、愛、時間ほか、にも触れてみたい。</p>							
テキスト、教材等							
<p>テキスト：デカルト『方法叙説』、サルトル『実存主義はヒューマニズムである』ほか          参考書：Nigel Warburton: <i>Philosophy: The Classics</i>. Routledge, 1998. 2<sup>nd</sup> ed., 2001.          辞典：粟田賢三・古在由重編『岩波哲学小辞典』1979.          Simon Blackburn: <i>Oxford Dictionary of Philosophy</i>. Oxford U. P., 1994, 1996.          A.R. Lacey(ed.): <i>A Dictionary of Philosophy</i>. Routledge, 1976. 3<sup>rd</sup> ed., 1996.          Thomas Mautner(ed.): <i>The Penguin Dictionary of Philosophy</i>. 1996, 2000.ほか</p>							
対象学生	成績評価の方法				教官研究室		
全学部	講義への主体的参加、論述、期末試験を総合的に勘案して評価する				1		
授業計画							
<p>序章 哲学を称えて</p> <p>第1部 哲学の基礎</p> <p>第1章 哲学の方法</p> <p>第2章 哲学の第一原理</p> <p>第3章 神の存在証明</p> <p>第4章 信仰</p> <p>第5章 哲学の諸命題 哲学者たち</p> <p>第2部 哲学の展開</p> <p>第1章 現象学 現代哲学の方法</p> <p>第2章 実存</p> <p>第3章 時間</p> <p>第4章 死</p> <p>第5章 愛</p> <p>終章 総括と展望</p>							